

2014年3月1日発行 第135号

目次	
P1 巻頭言 永井美智子監事	P9 後半 レイテ島支援募金の報告
P2-P6 シンポジウム「なぜ、いま幸福論がさかんなのか」	P10 抹茶／書道体験教室／レイテ島でボランティア活動
P7 アルメニアのクリスマス料理	P11 会員新年懇談会
P8-P9 大使による講演会「アゼルバイジャン共和国」	P12 事務局便り／編集後記

## 国連大学について

港ユネスコ協会 監事 永井美智子



港ユネスコの会員だというだけで、出会ったばかりの方達ともバザーや講演会などの開催のために協力し、意見の違いがあっても率直に話し合い、会員としての連帯感を深めあう、そんなこの十数年を、私は感謝に満ちて、誇りに思っている。

この巻頭言の貴重な場をいただき、亡夫永井道雄が最後まで夢を託していた国連大学のことを、私よりよくご存知の方もおられると承知の上で、私の知る限りの現況を報告させていただこうと思う。

1969年第24回国連総会で、故ウ・タント国連事務総長が「国連大学創設案」を発表されて以来、その日本への本部設置による日本の教育改革と世界平和への貢献を夢とした亡夫の奔走が始まった。

多くの国々からの誘致運動は激しかったが、故佐藤栄作総理を先頭に、日本の政・官・財界と学界の協力により、1975年に国連大学本部の仮事務所が渋谷に設置された。以後紆余曲折を経て1992年には東京都港区青山に本部ビルが完成した。

その後は、世界に15の研究・研修センターを設け、その他の多くの研究機関と提携して、世界の国々の安全保障や平和維持のための国連活動のシンクタンクとして役立つ研究を重ねている。

2009年の国連総会で大学院設置が承認され、一昨年には「サステイナビリティと平和研究科」の修士一期生が学位を取得した。

2012年には、博士課程（定員数名）も開設された。世界各国から毎年50～60倍の難関を突破した修士課程の学生の中には、毎年1人か2人は日本人もいる。

国境を越えた多種多様な難局に、専門的で高度な知識と訓練とそして理想を持った国連大学大学院卒業生達が、世界の隅々で国連活動に携わる姿を見るのも近い。

昨2013年、第六代学長に就任されたデイビッド・マローン学長は、「国連大学の本来の責務である国連のシンクタンクとしての研究活動と人材育成をより強力にする。そしてそのために日本社会全体の理解と協力を得るよう努力する。」と言われた。当り前のことのようにではあるが、今迄の学長の宣言としては初めてのように思える。毎年の政府からの分担金削減に対応するために、亡夫が苦勞していたのを思い出し、この対応とともに大学院生の奨学金基金確保も、と宣言された現学長の苦勞が案じられる。

国連大学の活動を広く理解していただけるようにと、青山の本部で、いろいろな講演会が無料で公開されている。ウェブサイトに興味を持っていただけるテーマを見つけては参加していただけたら、それが学長やスタッフにとって大きなサポートになるであろう。

# 2013年度 シンポジウム

日時 2013年11月28日(木) 18:30~21:00

会場 港区立男女平等参画センター 5階ホール

使用語：日本語

## テーマ：なぜ、いま幸福論がさかんなのか？ 幸せとは何か

急速な少子高齢社会に向っているわが国で、ブームといわれるほど「幸福論」について多くの本が出版されていると聞きますし、テレビでもいろいろな番組が放映されています。幸福とは何か、私たちは何を指して、どのようにしていけば、もっと幸せな社会で、もっと幸せに生きていけるのかを模索しているといえましょう。

もっと幸福になるために、個人として、社会として、何かこれまでの在りようを変えなければならないとするならば、何をどのように変えればいいのでしょうか。そして、国や地方自治体側は、私たち住民が幸せに暮らせるための手助けとして、どのような施策を考え、実施しているのでしょうか？



永野博 港ユネスコ協会副会長が主になって企画。当日はモデレーター役をつとめました。

基調講演はドイツ日本研究所のフロリアン・クルマス所長が日本語でお話下さいました。

その後、「幸福途上国ニッポン」の著者である目崎雅昭氏が、幸福についての分析と提言を行われました。

荒川区自治総合研究所の長田七美副所長から、日本中で先駆けて、自治体として「住民の幸福実感向上を目指す取組み」を進めておられる荒川区の政策についてご紹介いただきました。

その後、3人の講師によるパネルディスカッションを行いました。

## 基調講演テーマ：「なぜ、いま幸福論がさかんなのか？ 幸せとは何か」

### 基調講演者フロリアン・クルマス氏

ドイツ日本研究所所長

この研究所は、現代日本研究を現地日本で行う最大のドイツ系研究機関です。

1988年から学術的な日本研究を行うとともに、世界各国の研究機関とも活発な交流をし、国際研究協力推進のために活動しています。



### 講演（日本語による）の概要

「なぜ、いま幸福論がさかんなのか？」と「幸せとは何か」という2つの問題の答えはなかなか複雑です。まず初めに、私の見解を要約して申し上げると、「いま幸福論が盛んなのか」については、資本主義の危機の表れの一つである、そして「幸せとは何か」に関しては、誰もが一人ひとり自分自身の解答を持っている、つまり、幸福の性質は、主に主観的なものであると考えています。

幸福論がブームであるというのは、最近出版された沢山の本を見るとわかります。幸福論の本が爆発的に出版され始めたのはバブル期以降ですが、今も更に人々の関心が続いているといえます。例えば、フランス人アランが90年ほど前に書いた「幸福論」の、日本語のマンガ本が300万部売れたというのは驚くべきことです。一体何故なのでしょう？

以前は社会の良さや発展を考える時に、国内総生産(GDP)が一番わかりやすい尺度として使われていました。しかしこの考え方には限界があるといわれるようになりました。それは、

- (1) GDPは市場取引されない活動の経済的な効果を見逃している
- (2) GDPは有益な活動と破壊的な活動との違いを見逃している
- (3) GDPの価値でその国の経済活動の成果が、国民の間にどう分配されているかがわからないからです。

そこで、これらの問題を加味して考える「新しい尺度」を探す必要があると考えられ始めました。

1012年の国別ランキングによると、日本の国民総生産は3位、1人当たりのGNPは12位、健康は5位、安全度(10万人当たり殺人件数)は3位でありながら、幸福度(2013年)については43位です。

第二次世界大戦後、日本のGDPは6倍に増えてきましたが、生活満足度はあまり変わっていません。つまり、経済成長にもかかわらず、日本人は幸せになっていないのです。日本の内閣が行ったデータからも同じような傾向が読み取れます。それどころか生活満足度は下がっているという説もあります。

これは、日本だけの現象ではなく、殆どの先進国で見られる傾向です。アメリカ人イースタリンは、「先進国では収入が増えても、幸福度は一定である」という「イースタリンの逆説」を唱えています。このように、将来の幸福について考えるには、GDPではなく「新しい尺度」が必要だと世界中の多くの学者が考えています。フランス、英国、ドイツ、日本、中国等の政府は、それぞれに、委員会を作って幸福探しをしています。これらの国々の委員会は、基本的な3つの視点から検討しています。

つまり、(1) 人々の幸福度はどのようにして調べることができるか (2) 幸福の研究は国の政府にとって何を意味するのか (3) 幸福の研究については、文化間の比較は可能か です。

「幸せの指標」作りには、客観的基準（良い生活）と、主観的基準（幸せな生活）の面から考える必要があります。客観的基準は、生活の実情をいろいろなデータ（寿命、豊かさ、教育水準、犯罪率、健康状況、家族関係、職場の人間関係、就業状況、など多くの設問）によって評価します。主観的幸福度に関しては、厄介な、なかなかつかまえていく問題です。その理由は、人々の意識調査によって調べるのですが、「気持ちを評価する」という難しさがあるからです。

世界各国の幸福度の国際比較や、OECDの「より良い暮らし指標2013年」等いくつかの指標によると、満足度のランキングが高いのは、北ヨーロッパの小さな福祉国家で、一人当たりGDPの高い豊かな国々です。中南米の1人当たりGDPの低い国々でも、満足度、人間の発展度合の状況指数は高くなっています。

**日本の目立った現象として、「日本はGDPが高いのに、日本人の幸福度の指数は低いこと」です。**

日本では、生活の質の客観的指標と幸福の主観的な指標の間に、大きなギャップがあり、このギャップが日本の不安定要因の一つではないかと思われまます。この複雑な問題については、学者として研究し、解明する必要があると思ひますし、また政治的な側面からも面白い問題だと思ひます。

日本は平均寿命を延ばすことに成功し、世界一の長寿国となりました。長寿は望ましいことです。しかし、実現してみると、難しい問題も出て来ています。さらに長寿の一方で少子化が進行しています。人々の出産行動の説明は容易ではありませんが、人口減少の背景には、日本社会において多くの人々が不安を感じていることがあるようです。少子高齢社会の注目すべき問題は社会保障制度の維持だけではありません。物質的豊かさをもた日本社会を必ずしも満たしてははしませんし、社会を担う中年世代が人間として抱く基本的な欲求を満たすことができずにいることも関係しているようです。

以上の点からいうと、これまでとは視点を変えてみる必要があるのかもしれない。つまり、「いくら経済が成長してGDPが増加しても普通の人々の幸福度は上がらない」という考え方よりも、「経済成長が生み出す諸々の問題があるにもかかわらず、人々の幸福度は下がっていない」という考え方のほうがふさわしいのではないかと思っています。

## スピーチ1：「人を幸せにしやすい社会とそうでない社会。日本は幸福途上国か」

スピーカー：目崎雅昭氏

「幸福途上国ニッポン—新しい国に生まれ変わるための提言」の著者  
国際文化アナリスト、日本メガソーラ整備事業株式会社代表取締役



### スピーチの概要

個人の幸せは、住む国や社会の違いで大きく影響されるのでしょうか？「国民の幸福度」を調査している国際機関の統計を見ると、どの調査結果からも、経済成長にもかかわらず、日本の幸福度はあまり高くないとわかります。

国や社会、そして文化は、そこで生きる人々の「幸せ」のために存在するはずでず。どうしたら、個人の幸福度が上がり、本当に幸せな社会ができるのでしょうか。これらの問題についてお話ししたいと思ひます。

**\*幸福の研究**について、3つの観点があります。

(1) 脳科学、心理学からのアプローチ：本屋に並んだ幸福に関する本の約7割はこのアプローチによります。

近年の研究では、人種や文化、環境に関係なく、人が幸福を感じるメカニズムは同じであると解明されてきました。つまり、人の表情と感情は万国共通であり、主観的に幸せな気分を自分で「幸せ」であると実感することが重要になります。ポジティブ心理学というカテゴリーでもあります。幸せは人類に普遍的なものであり、自己の改革によって、幸せは得られるというものです。

(2) 「昔はよかった」とか、ブータンの幸福国家論：昔との比較は感情論といえます。ブータンは「幸福な国」の実現を世界で最初に取り組んだ国ですが、人口70万の、個人の自由や人権が十分に尊重されているとは言えない国です。ですから、こういう観点からの幸福論は普遍性がなく、持続は不可能だといえます。

(3) 文化の比較・社会環境の影響：主観的な幸福度は、人種、気候、宗教色の強さなどは関係なく、社会環境や文化の違いが大きく作用しています。つまり、個人の自由度（寛容度）が高い社会が、人が幸福に生きやすい社会であるといえると思います。

**\*不幸の象徴である、「自殺率の高さと出生率の低さ」**について

(1) 人口10万人当たりの自殺者数を国際比較してみますと、日本の男性は10万人当たり33.5人、女性は14.6人、全体としては23.8人で、世界で5番目に多い順位です。人口比で自殺が多い国は、旧共産圏諸国と、アジア（韓国、日本、香港、中国など）です。（例外はスイス）。

(2) 出生率の低いワースト10は、旧共産圏諸国とアジア（日本、シンガポール、韓国）が占めます。（他はドイツとマルタ）。

この2点から見えてくるアジアと旧共産圏の共通点の1つは、どちらも「権威主義」もしくは「集団主義」であり、「個人の自由」が軽視されていることです。どちらも、自主的に社会から退場する人が最も多く、意識的に社会に参加する人を増やしたくない社会であると言えるでしょう。

**\*日本の幸福度**について、国際比較してみると、外面から見た数字（平均寿命、1人当たりGDP、成人識字率、就学率など）は高い。けれど、内面から見た幸福度は、世界の諸々の統計によると、97か国中43位、146か国中60位、143か国中75位、178か国中90位とすべて大変に低い位置にいます。また、**日本の社会を、世界の指数で見ると**、政治・社会的なシステムとしての自由度は世界でトップレベルですが、男女平等指数は、世界143か国中101位です。また、人生が自由だと感じている人は、世界最低レベルですし、楽しい時間が重要と考える人の割合や、クリエイティブが重要だと考える人の割合は世界最低レベルです。

**\*以上申し上げたことから、私は、幸福な社会への提言として、「社会個人主義」**をあげたいと思います。

この基本は個人主義のバージョンアップです。人格の独自性と自立性を重んじ、個人の自由と権利を尊重するとともに、他者の自由と権利も尊重する。そのように個人が幸福を追求していく過程の中で、最終的に行き着くところが、「自分にしかできないこと」であり、**個人と個人とが自発的な絆で結ばれる社会**です。

社会個人主義、個人を優先する社会を実現する手立てとして、社会レベルと個人レベルの面が考えられます。

- ① 政治的な課題としては、法律を中心とした**多様性を担保**できる社会の改革をしていくこと。
- ② 個人として**1人ひとりの意識の改革**が必要で、「何のために生きているのか？」という問いに対して、「**幸せのため**」と当たり前のように皆が考える社会が大前提となります
- ③ 自己犠牲をとまなう**他人のため**ではなく、**自分のための延長に他人のためが含まれる**、という生き方が、より多くの人々を幸せにすることができます

日本人が多様な価値観とライフスタイルを受け入れ、個人の選択と自由が尊重される社会、個人に寛容な社会をつくることは、個人の幸福度をあげるという目的だけでなく、これからの日本における、歴史的な必然の課題なのかもしれません。

## スピーチ2：荒川区民総幸福度（GAH）と幸せリーグ



スピーカー：長田七美氏

公益財団法人 荒川区自治総合研究所 副所長

## スピーチの概要

人の幸せは何かという問題は古くから問い続けられています。戦後、日本は稀に見る高度成長を遂げました。しかし、そんな日本においても国内総生産（GDP）が上がっても、日本人の幸福度は上がっていないというデータもあります。



荒川区では、平成16年11月に西川太一郎区長が就任すると同時に、「区政は区民を幸せにするシステムである」というドメイン（事業領域）を定めました。これは、国内総生産（GDP）のような物質的な豊かさや経済効率を追求するだけでなく、心の豊かさや人とのつながりを大切にしたい、区民一人一人が「幸福である」ということを心から実感できることこそが、区政にとって真に重要であり、区政が果たすべき責務であることを明示したものです。平成17年には区民の幸福度指標である「荒川区民総幸福度（Gross Arakawa Happiness : GAH）」を区政に取り入れることとし、庁内にプロジェクトチームを組織しGAHの指標化の検討を開始しました。

その後、平成21年には荒川区自治総合研究所を発足し、外部の専門家も参画している荒川区民総幸福度（GAH）に関する研究会と行政の最前線に立つ現場の職員で構成するワーキング・グループを設置し、多角的・実践的な議論を重ねてきました。

荒川区民総幸福度（GAH）の取り組みの1つは、区民の幸福実感を測る指標を作成することです。その動向を見ながら、区民が今よりもっと幸福を感じられるようになるには何が必要か、不安や不幸の要因を減らすためには何が必要かを検討しながら、健康・福祉、子育て・教育、産業、環境、文化、安全・安心の6つの分野ごとに幸福実感指標を作成し、その指標を用いてアンケート調査等を行い、その分析結果を区民の幸福実感の向上に寄与する政策に活かすのが目的です。

また、GAHのもう一つの重要な取り組みは、「地域力」です。区民の幸福実感の向上は、隣人や地域を思う「つながりや助け合い」といった地域の力なしには実現しません。荒川区では、区に関わるあらゆる人や団体が、地域の幸福のために力を合わせて地域をより良くしていこうという運動を進めています。

こういう運動を進めていくには「分かち合い」という言葉がキーワードになると考えました。競争一辺倒の社会から脱却し、お互いに持つものを分かち合い、助け合う地域社会を目指すことで、誰もが幸福を感じる地域社会を実現していくというものです。

このように荒川区民総幸福度（GAH）の取り組みを通じて、今後も荒川区の誇りであるお互いに助け合う地域の風土、地域力をさらに深めながら、区民の不幸を減らし、幸福を増やし、誰もが幸福を実感できる、あたたかい地域社会を築いて行こうとしています。このような住民の幸福実感向上の取り組みは、住民に最も近い基礎自治体だからこそできることだと考えています。

### \*GAH 推進に向けた取り組み（研究と具体的な施策）

- ①不幸を減らす施策 子どもの貧困対策、防犯対策
- ②心配を減らす施策 防災対策、親なき後対策
- ③失業に対する施策 就労支援課設置、特例子会社支援、障がい者就労訓練 など
- ④地域貢献を進める施策 ボランティアポイント、街中花壇、町会活動への支援、コミュニティカレッジなど
- ⑤健康重視の施策 区内飲食店での健康メニュー開発、メタボ対策、転倒防止体操の開発 などです。

### \*だれもが幸せを感じられるまちを目指す荒川区の取り組みをまとめますと、

- ・住民の幸せの実現は、基礎自治体が挑戦すべき目標である
- ・「社会に貢献すること」や「自分の能力を活かすこと」が自分自身の幸福度の向上にも寄与するという認識を住民、企業、団体など地域社会を構成するすべての人が共有することができれば、地域に「分かち合い」の輪が広がり、「思いやり」にあふれたあたたかい地域社会が実現する
- ・住民の幸福感向上に向けた取り組みと同時進行で生れてくるのが真に住民本位の行政
- ・住民の不幸を一つでも減らし、幸福を一つでも増やしていくことを通じて、誰もが幸福を実感できる社会の実現を目指す

### \*住民の幸福実感向上を目指す基礎自治体連合（幸せリーグ）について

荒川区が発起人代表となって、全国の基礎自治体に呼び掛け、住民の幸福を基点とした行政運営に取り組む自

治体が連携、協力して、「住民の幸福実感向上を目指す基礎自治体連合」、通称「幸せリーグ」が平成 25 年 6 月 5 日設立されました。25 年 11 月現在で、1 都 1 道 1 府 28 県から、58 自治体が参加しています。これは、幸せリーグの活動を通して、同じ問題意識を持つ基礎自治体同士が密接な協力関係のもと、お互いに学び合い、持てる力を結集し、補い合いながら、切磋琢磨し、各自治体で行政サービスのレベルアップを図ることを目的としています。

## パネルディスカッション

永野副会長のモデレーターのもと、パネルディスカッションに入りました。パネリスト同士で交わされたディスカッションの内容や、フロアからの質疑応答やコメントについては、テーマだけを下記に列記させていただきます。



- \* 荒川区は不幸にならないための施策を進めていると伺ったが、生活基盤の確保、セイフティネットがきちんとしていることこそが大きな幸福度の指標ではないかと思いますが。
- \* 日本の幸福度が低いというのは、マスコミの取り扱い方に問題があるのではないのでしょうか？
- \* 幸せは結局、個人の気の持ちようだと思います。その気持の持ちようをどのように変えていけばいいかが問われるのではないのでしょうか。
- \* 幸せは個人の達成度、自由度が関係していると伺いましたが、その観点から言うと、荒川区の施策は、住民の幸せを増す方向で取り組んでいるといえるのでしょうか？
- \* 荒川区の取り組みは素晴らしいと思います。同じような取り組みを始めた東京の区はありますか？
- \* 日本人が世界の 5 位に位置するほど自殺率が高いと聞きました。個人主義を主張される目崎さんの目からみれば、自殺も一つの自由の行使だといえるのでしょうか？
- \* クルマス所長が「経済成長にもかかわらず、人々の幸福度は下がっていない。」とおっしゃいましたが、もう少し詳しくお話し下さい。
- \* 年齢と幸福度の変化をみると、ヨーロッパなどでは、若者と高齢者は、熟年層よりも幸福だという U 型が普通だといわれています。しかし、日本は 40~50 歳頃の幸福度の底辺から、高齢になってもそのまま、下がったままだともいわれています。これは、少子高齢社会という人口構成に関係しているのでしょうか？
- \* 「何のために生きていますか」と聞かれた時、「幸福のために生きています」とすぐに答える日本人は少ないと思います。この会場には「幸せのために生きています」と返答する人は何人位おられるのでしょうか？
- \* 幸福度の調査をするときには、男女別に調べていますか？
- \* これからの社会を考えた場合、GDP を考慮することなく、幸福度だけを考えるだけでいいのでしょうか？
- \* 住民ニーズは、地域によって異なります。基礎自治体として、地域の特性を考慮し、過去との比較をしながら、幸福度を増していくための施策に取り組んでいくことが大事だと思っています。

以上

このシンポジウムで、「幸福」という抽象的なテーマを取り上げることに決まった時、はたして焦点が絞られるのかと少々危惧しました。しかし、素晴らしい講師の先生方にご参加いただけただけのお蔭で、大変興味深い内容になりました。

今回、もっと幸せを実感できる社会で、幸せに生きていくためには、一人ひとりの心の変革が必要であり、加えて社会の変革が必要であると伺いました。また、行政側として、すでに具体的な取り組みを熱心に始めておられる荒川区があり、その動きが日本中に広がりつつあることを、初めて知りとても嬉しく心強く思いました。

「平和と愛と希望」のある幸せな人生を願って、自ら変わっていくことで、住んでいる地域や、社会、そして、世界の人々の、幸福度はまだまだ高まる可能性があるのだと教わり、少し明るい気持ちになりました。

(担当：国際学術文化委員会　まとめ：会長 高井光子)

# アルメニアのクリスマス料理

日時 2013年11月23日(土) 12時~15時30分

会場 港区立男女平等参画センター4F料理室

## 講師 カリネ・ハルチュニアンさん

国際交流基金フェローシップ招聘者

日本大学経済学部研修生



年末恒例のクリスマス料理。今回はアルメニアの料理です。

講師のカリネさんは今年12月早々にご自宅のあるアルメニアの首都エレバンに帰国されるという忙しいスケジュールのなか、ご協力いただきました。

アルメニアは黒海、カスピ海の間、トルコ、グルジア、アゼルバイジャン、イランに囲まれた人口310万人の国です。西暦301年に世界で最初にキリスト教を国教とした歴史を誇る国で、現在も特徴的な教会が沢山存在しています。ここで発見された「ナリネ乳酸菌」の効用については世界で注目されています。

1991年に旧ソビエト連邦から独立した共和国です。

**本日のメニューは以下のとおりです。**

**★フリンチキ(クレープの春巻き風)** 皮であるクレープを作る時に重曹をいれます。これで比較的失敗はしません。具は牛ひき肉と玉ねぎのいためたもの。具の入ったクレープを、油を敷いたフライパンで一瞬、あたためます。



**★スマイルサラダ** 私たちのポテト・サラダにピクルスが加わっています。

**★「ロール茄子」サラダ** スライスした茄子にマヨネーズであえたニンニクと砕いたクルミを巻きます。

**★ニンジンのサラダ** スライスしたニンジンにニンニク、バルサミコアルメニア産調味料を加えます。

**★ぶどうの葉のドルマ** ぶどうの葉でくるんだ料理です。

エンドウ豆、レンズ豆、ブルガーといわれるひき割り小麦(みな水で戻す)、それに油いためしたみじん切りの玉ねぎ。それらをすべて混ぜてブドウの葉で巻いて煮ます。ゆでたキャベツで巻けばロールキャベツになります。今回のブドウの葉はカリネさんが用意してくださったレバノン製のびん詰でした。

参加者一同は、思いのほか、あっさりした味に舌鼓をうちました。

カリネさんは、工場見学が大好きとおっしゃる理系の女性です。母国で最初に関わった仕事は、ダイヤモンドのカットだったそうです。ダイヤモンド加工はアルメニアの主な産業です。日本からの注文については、質を厳しく問われるとのことでした。

将来は日本と母国を架けるビジネスをしたいとの希望を述べられました。



カリネさん、珍しいクリスマス料理をお教えいただき有難うございました。参加者の皆さんは、きっと初めての美味しい味を楽しんでいただけたことでしょう。

(世界の料理委員会 松崎加寿子)

## テーマ：アゼルバイジャン共和国 独立国家として 23 年

講師：駐日アゼルバイジャン共和国特命全権大使

### ギュルセル・イスマイルザーテ 大使

日時：2014 年 2 月 3 日（月） 18：30～20：30

会場：港区立生涯学習センター3 階 304 号室



大使は日本の筑波大学と上智大学に留学し博士課程まで学んだ方なので流暢な日本語で母国の紹介をしながら当日の出席者に対し同国への親近感を抱いてもらおうと熱弁を振るわれた。満席の聴衆は、熱気とユーモアに富んだ大使の講演に聞き入り、アゼルバイジャンの実情の理解を深めた。

当日の講演会には来日中の大使のお母様も同席され、上智大学院の恩師である三輪公忠名誉会教授（港ユネスコ協会名誉会長）夫妻も出席された。

大使は先ず、昨年、日本の 2020 年東京オリンピック開催決定と和食がユネスコ世界遺産に登録されたことに祝意を表された。後者は首都バクーでの会議で決定したと触れられた。

その後、アゼルバイジャンの歴史紹介から講演を始められた。1828 年、ロシアとイラン両国の条約によりアゼルバイジャンが南北に分割された。ロシア革命直後の 1918 年 5 月に民主共和国として一時、独立したが、1920 年 4 月に赤軍の占領によりソ連に併合された。1991 年 10 月 18 日、ソ連崩壊で共和国として独立し今日に至っている。

地勢的には南コーカサスに在り、ヨーロッパとアジアの交差点に位置する。北はロシア、東はカスピ海に面し中央アジア、南はイラン、西はグルジア、アルメニア、トルコに接している。人口 920 万人（1991 年は 800 万人）、面積 8 万 6,000 平方 km（北海道程度）であり、トルコ語に近いアゼルバイジャン語を話している。人口の 95%以上がイスラム教徒（シーア派）だが、世俗的な国家である。

アゼルバイジャン人は、ロシア領内に 200 万人、イラン領内に 2,500 万人住んでおり世界全体で 5,000 万人いるといわれる。

次いで国旗の意味を説明された。現在の国旗は 1918 年に独立した時のものと同じものを採用している。青、赤、緑の三色旗で、一番上の青は自由、民主主義を表し、真ん中の赤はトルコ系で多く採用されており、下の緑はイスラム諸国で多く採用されているものだ。真ん中に月、星がある。八角形は 8 つの少数民族を表している。

国名のアゼルは火を、バイジャンは国や場所を意味する。

歴史としては古く、石器時代から人が住んでいた。その後、アレクサンダー大王、イスラム、モンゴルがやってきた。シルクロードの通過点でアジアとヨーロッパの交差点だ。

イスラム化される前はゾロアスター教と呼ばれる拝火教が栄え、今でも首都バクーに聖地がある。

イスラム世界の中ではユニークな存在だ。実際、イスラム世界で最初の民主主義共和国、最初の女性の選挙権付与、最初のオペラハウス、バレエなどがある。

1990 年代からカスピ海沿いで石油開発が始まった。2012 年の GDP は 692 億米ドル、1 人当たり 7,490 米ドル。成長率は 2.2%（非石油部門は 9.9%）。外貨準備高は 460 億米ドル、インフレ率 1.1%である。

2000 年には石油依存が 90%だったが、その後 他の部門を伸ばし 2012 年には 50%まで低下している。

石油と天然ガスはヨーロッパに輸出されている。パイプラインは、政治的配慮からロシア、アルメニアを通過せず、グルジアやトルコ経由で黒海や地中海からタンカーで運ばれている。

1991 年の独立後は、ヨーロッパの国として国連に加盟し、2012～2013 年には安保理の非常任理事国になった。



2013年にはフランスとアメリカの技術支援を得て、宇宙衛星の打ち上げに成功している。

かつて、2016年と2020年開催のオリンピックに立候補したが選挙で落選したのは残念だった。国内には歴史的遺跡などの世界遺産、自然美観とキャビアなどの食事といった観光資源が豊富なので日本の方々にも是非、訪問して欲しい。

### 参加者との質疑応答

質問 1. 日本との関係をどのようにしていこうとしているのか？

回答：わが国は日本に学ぶことが多い。バクー大学には日本語学科が設置されており、日本への留学生を増やそうとしている。

質問 2. 周辺隣国との関係はどうなっているか？

回答：ロシアとは経済的にも政治的にも良好な関係だ。グルジアには石油パイプラインが通っているように共存関係だ。トルコとは同じ民族なので関係は良い。イラン北部にはアゼルバイジャン人が住んでいる。アルメニアがアゼルバイジャンの領土の20%を占領し、今も戦争状態だ。

質問 3. 政治と外交はどうなっているのか？

回答：大統領共和制を採用している。当初、大統領は2期で再選が出来なかったが、その後修正され、現在のイルハム・アリエフ大統領は2013年10月に3回目の就任。任期は5年。125名の議会も任期は5年だ。外交では、ロシア、EU、アメリカ、イランと良好な関係を維持しており、パレスチナを支援している。グルジアの教訓を活かしている。

質問 4. カスピ海的环境破壊への対応はどうしているのか？

回答：ソ連崩壊後、独立したカスピ海周辺5カ国での領海についての考え方が一致していない。敵対行動は執らないことにしているが、環境対策までは手が回っていない。

質問 5. 地域統合の構想はあるのか？

回答：GUAMという枠組みがある。グルジア、ウズベキスタン、アゼルバイジャン、モルドバの頭文字だ。このほかにトルコ、アゼルバイジャン、中央アジア4か国の取り組みもある。

(国際学術文化委員会 塩瀬正明)



大使の母上



## フィリピン台風30号によるレイテ島被災支援緊急募金

### 駐日フィリピン大使館に お届けしました

過去最大級といわれる台風30号が昨年2013年11月8日フィリピンを直撃し、中部を中心に甚大な被害が発生しました。特に被害の大きいレイテ島では、暴風雨と高潮に見舞われ、住宅や建物が次々と濁流にさらわれ、一面の瓦礫に姿を変え、大勢の犠牲者が出ました。被害は広域にわたり、今なお、大勢の方がたが困難な避難生活が強いられています。

港ユネスコ協会有志が11月末にレイテ島支援緊急募金を会員の皆さまに呼びかけましたところ、お蔭様で38名からご寄付をいただき、加えて、シンポジウム会場での募金や新年懇親会残金など合わせて合計16万円となりました。それを、呼びかけ人3人が、2014年1月30日、港区六本木にあるフィリピン大使館を訪れ、二等書記官兼領事ブライアン・デクスター・ラオ氏にお手渡ししました。皆さまのご好意に対し、たいへんお喜びいただきましたことをご報告させていただきます。



青年会員佐藤修平さん(大学生)は、台風被害を報道で知るやいなや、レイテ島へ出かけられました。若い方の積極的な気持ちや行動を嬉しく、頼もしく思っています。10頁の感想文をご覧ください。(会長 高井光子)

## (1) 茶の湯体験教室

日時：2014年1月25日（土）13：30～16：00

会場：港区立生涯学習センター2階 203号室

参加者：25名 アメリカ、カナダ、ドミニカ、ハンガリー、  
ドイツ、セルビア、リビア、中国、韓国  
(5歳、9歳、12歳の子どもさんを含む)

内容：\*説明 おじぎ、正座、歩き方、お菓子のとり方、  
抹茶のいただき方

\*講師のお点前のデモンストレーション。

\*お菓子とお抹茶をいただく。\*お点前の一部の体験。



大勢の方に参加していただき、終始和やかに進めることができました。このところの日本ブームが影響したのでしょうか。日本文化の1つである茶道に興味を持つ外国の方がたが増えていることを嬉しく思いました。

## (2) 書道体験教室

日時：2014年2月8日（土）13：30～16：00 会場：港区立生涯学習センター304号室

参加者：8名 フランス、ドイツ、イタリア（5歳の子どもさんを含む）

体験教室内容：簡単な書道の歴史説明。書道具の説明。半紙に基本の練習。好きな字を選んで練習する。清書を書く（自分の名前を入れる）。作品を持って記念写真を撮る。



参加者の感想：日本の書道を体験出来て幸せだった。/小学校以来の書道で、とても楽しかった。今後体験したいこととして、いけばな、折り紙、茶道。

当日は東京に20数年ぶりの大雪が降りました。それにもかかわらず、参加して下さった方がたの熱意に勇気づけられました。外国人の日本文化に対する関心が大変に深いことを、あらためて感じました。

(ユース活動委員会担当 常任理事 平方一代)



## 《フィリピン・レイテ島へ支援ボランティア活動に行ってきました》

2011年3月11日の東日本大震災発生以来、多くの日本人が様々なことを考え、困難や人生の転機を改めて感じたのではないかと思います。私もその一人です。連日放送される震災被害のニュース、原発事故、増えていく死傷者。一体、この不安な日々がいつまで続くのだろうと毎日考え、怯えていました。



そんな時に、東京の私の家に缶詰や水、そして手書きの応援メッセージが届きました。送り主を見ると台湾の友達からのもので、そこには「私達がついている」とメッセージが大きく書かれていました。

この経験は、私の中にある損得の価値観を大きく変えるものになりました。そして、昨2013年の11月の台風30号の被害の報道を見るなり、躊躇なく私はフィリピンに足を運びました。

フィリピンにはフランス留学中に知り合った仲の良い学友が住んでいます。当初台風被害のニュースや映像を見たときにあまりのショックで言葉を失いました。そして次に考えたのは、「自分ができることは何だろうか」ということでした。そこで私は食料や水などを持ってフィリピンの被災地へ行って、そのままボランティアをしようと思いたち、フィリピンへと向かいました。

私の友達もレイテ島より離れた所に住んでいたため幸い被害は少なく、家族もみな無事でした。その後セブ、オルモック、タバゴを経由し、なんとか被災地まで到着しましたが、正直なところ私ができることはあまりにも少なく、現地の人の役に立てたかどうかはわかりません。しかし、「あなた達は決して一人ではありません。」ということ、私が東日本大震災時に台湾の友人からもらったあの気持ちを、一人でも多くの人々に伝えたいという気持ちで一杯でした。

現在でも日本の東北地方やのレイテ島には厳しい困難と闘わざるを得ない多くの人々がいます。我々は、たとえ直接的に何も出来なくとも、募金やボランティア活動など出来ることはたくさんあると思います。そして何より重要なことは、その出来事、その苦しむ人々のことを忘れないということだと私は思います。

「あなた達は決して一人ではありません。」一日でも早いレイテ島の復興を願っています。 (青年会員 佐藤修平)

# 2014年新年懇親会

日時：2014年1月26日(日)、12:00~14:40

会場：イタリアンレストラン「GRIFONE」港区白金台

## ゲスト・ソプラノ歌手神田さんの熱唱で、最高潮！！

恒例の新年懇親会。受付では参加者から、「あけましておめでとうございます。」「新年おめでとう、元気！」、「受け付け係り、いつもご苦勞様」など、会員同志の元気で明るい言葉のやり取りは、いつ聞いてもすがすがしい。特に新年のご挨拶となると格別です。

時間通り正午、司会役の秋山雅代常任理事と三好潤副委員長の二人が開会の口火を切りました。

最初に高井光子会長から新年に向けての挨拶をいただきました。「新しい年の初めに皆様とお目にかかることができとても嬉しく存じつつ、この機会に日頃の活動へのご協力、ご参加に感謝申し上げます。世界各地には紛争や痛ましい事柄が続いております。世界の平和を願う私たちのユネスコ活動はますます大切だと思えます。今年も、より積極的な活動のためにご協力下さるようお願いいたします。」

続いて、元気一杯の松本洋副会長の「乾杯！」の音頭で飲食がスタートしました。飲食中、あちこちに話しの輪ができて、笑顔や笑い声が目や耳に飛び込んで来ました。矢張り、この笑顔こそ MUA が求めている「原点」といえましょう。

次は、初めての自己紹介ゲームは「1分という時間制限」と賞品つきです。まず三輪公忠名誉会長からスタートしました。時間と中身のバランスのとり方の難しさを体験しました。賞品を手にした方がたからはご満悦の笑顔がにじみ出ています。こんな所にも「小さな満足」があるのかもしれない。

自己紹介の後、今回のイベント。スペシャルゲストとしてお招きした藤原歌劇団ソプラノ歌手神田さやかさんの熱唱が始まりました。

身近で耳にするプロの歌声は、大舞台や映像とはちがって、その迫力たるや誠に素晴らしい。一同はその響きわたる歌声に身と心に底知れぬ大きな感動をおぼえました。日頃、オペラに接する機会の少ない者にとっては、感慨一入でした。歌っていただいたのは、以下の通りです。



- ①O sole mio
- ②You raise me up
- ③歌劇「トウーランドット」より「誰も寝てはならぬ」
- ④歌劇「椿姫」より「乾杯のうた」

今回の懇親会で、大変嬉しいことの一つに、昨秋入会の青年会員の佐藤修平さんと、1月に入会されたばかりの増田典子さんに参加いただいたことでした。少しでも早く協会の空気になれて、それぞれ得意な分野で活動に参加されますよう希望いたします。

参加者全員の記念撮影の後、再会を約束しつつ、名残をおしみながらの散会となりました。

このレストラン「GRIFONE」を使い始めて3年目。会場設定は、料理、イベント内容、交通網、会費などなど、委員会で鋭意検討して決めました。特に料理については昨年の実績をベースに、シェフと喧喧諤諤の結果決定したものです。会場が同じなら、「中身で勝負！」をモットーに重点的に考えてものです。シェフさん、ご協力ありがとうございました。



新年懇談会はたとえ1年に一度であっても、飲食をともにしながら、一にも二にも会員同士が互いに顔をあわせて、語りあい、笑いあい、刺激しあって、学びあい、理解しあい、一歩でも新しい考え方、生き方を発見する機会の「場所・時間」であると考えています。来年の懇親会は、皆さまのご意見を伺いながら、より楽しく、中味のより濃いものを目指して委員会一同計画して行きたいと思えます。ご協力を切にお願い申し上げます。

(会員開発委員会担当 常任理事 友金守)

## 事務局便り

【ようこそ 新入会員】 個人会員：堤猶二さん、増田典子さん、小林敬幸さん

【今後の行事予定】 (詳細は別途、チラシやホームページでご案内します)

☆3月9日(日) 12:00~15:30 世界の味文化紹介「スリランカ料理」 会場：港区立男女平等参画センター

☆3月19日(水) 14:30~16:30 大使館訪問「モンゴル大使館」(会員及びその家族のみ)

☆4月15日~7月15日 英会話中級クラス 毎火曜日、18:30~20:30、コース全14回

会場：港区立男女平等参画センター 講師：ジェフリー・ブラウン先生

☆4月16日~7月16日 英会話初級クラス、毎水曜日、18:30~20:30、コース全14回

会場：港区立麻布区民センター 講師：マーク・マードック先生

☆4月8日(火) 18:30~20:30 講演会 講師：三浦雄一郎氏「4度目のエベレスト 挑戦は続く」(仮題)

会場：麻布区民センターホール

☆4月25日(金) 19:00~20:30 MUA総会 会場：港区立生涯学習センター305号室

【ご寄付ありがとうございました】(寄付者のお名前敬称略 50音順)

(A) 日本ユネスコ協会連盟の東日本大震災子ども支援募金(奨学支援金として)

☆アルメニアのクリスマス料理教室で1,000円 ☆アゼルバイジャン講演会で2,300円

(B) ミンダナオ子ども図書館 寄付金：¥10,000 永井美智子

寄贈品：今村孝子、葛西章江、高井光子、富田晴雄、永井美智子

(C) フィリピン・レイテ島被災支援港 MUA 緊急募金合計 16万円

¥33,000 高井光子 ¥10,000 市川順子、岩田昭子、岩田早苗・麻衣、三輪恵美子 ¥6,000 松本洋

¥5,000 上野圭子、佐藤美子、土田元子、山田摂子、吉永まさみ ¥4,400 平方一代 ¥4,000 笠原正子

¥3,000 今村孝子、葛西章江、金沢由里、坂下采子、田村浩子、永井美智子、吉兼実 ¥2,000 江原音子、

永野博、中前由紀、山本俊介 ¥1,000 青野光裕、秋山雅代、大崎マキ子、奥村和子、菊地賢介、北岡修

清水軍治、鈴木明美、棚橋征一、富田晴雄、友金守、長門芳子、福原忍、渡部俊子

¥5,300: シンポジウム会場 ¥6,900: 新年懇親会残額(依頼状郵送料¥7,600を差引) <<関連記事9頁>>

(D) 新年懇談会への賞品として。商品券3万円：中川統夫、商品券5千円：富田晴雄、菓子類：清水軍治

【ご協力のお願い】事務局までお願いします。

\* 日本ユネスコ協会連盟の東日本大震災子ども支援(奨学支援金)への募金

\* ミンダナオ子ども図書館への寄贈品(衣料品など：新品・中古品[洗濯済] 除・毛織物)と募金

### 港ユネスコ協会事務局 (火~金 10:30~17:30)

〒105-0004 東京都港区新橋3-16-3 TEL 03(3434)2300 TEL・FAX 03(3434)2233

Eメール：info@minatounesco.jp

ウェブサイト：<http://minato-unesco.jp>

#### ■編集後記■

◆ 港ユネスコ協会に事務局員としてお世話になり、もうすぐ2年が経とうとしています。会長・事務局長をはじめ、皆さまから頂いてきた数々の温かなふれあいを思うとき、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。(葛西章江) ◆ 2月に入って関東地方平野部でも、何十年ぶりと言われる大雪が降った。地球温暖化が進むと一回に降る雪の量が増えるという説がある。北米での大寒波襲来、英国や南米の一部の国では大洪水、一方、豪州大陸南部で夏季の異常高温による大規模な山火事の発生等々。地球温暖化に伴う(?)異常気象を憂えざるを得ない。(須田康司) ◆ 「Yes, we can!」をスローガンにオバマ大統領が颯爽とホワイトハウス入りした時には、米国社会も変わった、と世界中が感じたと思う。一方、先日観た映画「大統領の執事の涙」からは、相手がどんな人種であれ、人間として自分たちと同等の尊厳を認めるということがいかに難しいか考えさせられた。(棚橋征一) ◆ 国際交流、グローバル化——などを、目指してきたつもりが、まだまだ、そして、もう一つ“まだ”だなあ。語学力のアップは勿論、外国人との誤解や、時に“いい意味”での対峙を乗り越えて、協力をしなければ、もはや、生きていけない時代になった。銀座の老舗で、道行く人を、ガラス越しに見ながら、考えた。(永倉知子) ◆ ソチ五輪の華やかな開会式の中で、会場一杯に展開されるロシアの歴史絵巻を見ながら、不意に、2009年秋、第二次世界大戦後シベリア抑留中にオレンブルグ市で亡くなった父たちの慰霊碑に参った時のことが頭に浮かんだ。父たちもロシアの過酷な歴史の一部なのだと、何とも表現しがたい感覚が襲ってきた。(高井光子)